

6月14日（日）主日礼拝レジュメ

「主の住まわれるところ」 使徒の働き 7章44～50節

44節の「あかしの幕屋」以外にも礼拝すべき場所は、以下のようにも呼ばれる。①聖所(出 25:8) ②主の幕屋(レビ 17:4) ③会見の天幕(出 27:21) ④会見の天幕である幕屋(出 39:32) ⑤あかしの天幕である幕屋(民 9:15) ⑥主の聖所(民 19:20) ⑦神の宮(士 18:31) ⑧主の家(Ⅰサム 1:7/主の宮とも訳す)。幕屋については、出エジプト記 25～31章は幕屋に関する神の指示が記され、35～40章は実際に指示どおりどのように造られたのかという記述で、いよいよ幕屋が完成したときには、「そのとき雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。」(40章34節)と記されています。そして、幕屋が建てられた理由は、出エジプト記 25章8節「彼らにわたしのための聖所を造らせよ。そうすれば、わたしは彼らのただ中に住む。」と言われました。つまり、幕屋は聖所であり、主なる神がイスラエルの民の中に住む所であり、会見の場であり、神の臨在を示す場所であり、出エジプト記 25章22節では「わたしはそこであなたと会見し、イスラエルの子らに向けてあなたに与える命令を、その『宥めの蓋』の上から、あかしの箱の上の二つのケルビムの間から、ことごとくあなたに語る。」と言われていて、神とモーセが会見し、民への命令を語られる場所でもあったということ。そして、幕屋はヨシュアの時代にカナンに運び入れられ、ダビデの時代まで続き、ソロモンが神のために家を建てた。

そして48節でのステパノの反論は、「しかし、いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。」ということ。

- ① 列王記第一8章27節 「それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるのでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。」

ステパノやソロモンは、殊更に、建物である宮を強調してはならない、むしろ強調されるべきは、主なるお方であり、神がそこに存在しておられること。神がどのような方か考えれば考えるほど、「いと高き方は手で造った宮などにはお住みにならない」と言わざるを得ない。49、50節は、イザヤ書66章1、2節の引用。

- ② イザヤ書66章1、2節 「主はこう言われる。「天はわたしの王座、地はわたしの足台。あなたがたがわたしのために建てる家は、いったいどこにあるのか。わたしの安息の場は、いったいどこにあるのか。これらすべては、わたしの手が造った。それで、これらすべては存在するのだ。一主のことば一わたしが目を留める者、それは貧しい者、霊の碎かれた者、わたしのことばにおののく者だ。」

主なる神は、「天はわたしの王座、地はわたしの足台」と言われる方で、その神にいったい人がどのような家を建てようとするのかと言わざるを得ない。2節の後半を見ますと、神の民がどのような者かということを表している。

- ③ イザヤ書57章15節 「いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。わたしは、高く聖なる所に住み、碎かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、碎かれた人たちの心を生かすためである。」
- ④ コリント人への手紙第一6章19節 「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。」

人の手で造られた神殿ではなく、キリストの十字架と三日目のよみがえりを通して、キリストのからだとしての教会が建て上げられる。

聖霊の働きを通して「主が目を留める者、それは貧しい者、霊の碎かれた者、わたしのことばにおののく者」が形作られ、それが主の安息の場、主はそのような者と永遠までも住んでくださる。

天はわたしの王座、地はわたしの足台と言われる方が、私たちの内を住まいとしてくださるということは驚くべき謙遜であり恵みである。私たちは決して罪により自らを神の安息の場でなくしてしまわないように、恵みを意味のないものとしてしまわないようにしなければならない。